

安川電機 2025 年度 第 1 四半期 決算オンライン説明会 質疑応答（サマリー）
（2025 年 7 月 4 日（金））

【回答者】

上席執行役員 経営企画本部長 一木 靖司

上席執行役員 コーポレートブランディング本部長 林田 歩

（注記）：

モーションコントロール：モーションコントロールセグメント

AC サーボ：AC サーボ・コントローラ事業（モーションコントロールセグメント）

インバータ：インバータ事業（モーションコントロールセグメント）

ロボット：ロボットセグメント

システムエンジニアリング：システムエンジニアリングセグメント

その他：その他セグメント

【米国関税影響】

Q 関税影響の考え方は？また、現地生産の競合他社もいるが、サーチャージ対応によるマイナス影響はあるか？

A 関税の直接的な影響額は、4 月以降 10%、7 月 9 日以降 24%となる前提で算出している。通期で 65 億円のマイナス影響額のうち、約 50 億円がアメリカの現地法人が日本から製品を輸入する時に発生し、約 15 億円はアメリカで現地生産するために部品を国外から調達する時に発生する想定だ。また、その影響をサーチャージでカバーする計画だ。現地生産の比率が高い競合他社も含め軒並み価格転嫁の方針を発表していることから、競争環境への影響はほぼないと考えている。

Q 関税影響が大きいセグメントは？

A AC サーボ、インバータで、それぞれおおよそ 25 億円程度。ロボットは現地でシステムを組んで販売するビジネスも多いため、相対的に影響が少なく約 10 億円程度。サーチャージによりカバーする計画なので、関税影響の変動によって価格転嫁の幅も変動するが、今のところ 65 億円のコスト増の全てをサーチャージで十分カバーできる。

【見通し】

Q 修正された通期見通しは、下期にかけて多少の回復を見込んでいることが窺える。新計画達成への自信はどの程度か？

A お客さまから具体的な投資計画の修正や延期などを聞かされているわけではないため、見通しの修正にあたっては、お客さまとの関係性や過去のビジネスの経験を踏まえ、事業別に 2Q 以降の未受注分について考える最大のリスクを織り込んでいる。未受注と既受注を十分精査した上での計画としているが、ロボットとシステムエンジニアリングについては既受注の割合が高い一方、モーションコントロールはその割合が 1/3 程度であるため、特に AC サーボはリスクを多めに織り込んだ計画になっている。

Q 見直した通期の計画における売上に対してコストの負担が重い、営業利益計画 430 億円の達成に懸念はないか？

A 間接費削減については、既に取り組んでおり削減が見えている内容のみを織り込んでいるが、更なる削減策についても検討している。

Q 今年度期初の時点でもリスクを織り込んだ計画になっていたが、今回はどのようなリスクを更に見込んだのか？

A 高い追加関税の導入決定もしくは関税交渉の長期化に伴い、今後想定しうるお客さまの設備投資の延期、縮小、取り消しなどのリスクを織り込んだ。

Q 営業利益増減分析の付加価値増減について、期初の通期計画からモーションコントロールはプラスに、ロボットはマイナスに修正しているが、その内訳は？

A 米国のインバータ事業は、オイル・ガス市場が低迷する反面、HVAC や一般産業向けに関しては受注が回復傾向にあり、ビジネスミックスの変化に伴って質が改善する見込みだ。また、中国の AC サーボ事業においても質の改善が期待できる。一方でロボットについては、中国 EV 関連の大口案件の収益性が通常のビジネスに比べて低いため、その影響を織り込んでいる。

Q 通期計画における営業利益増減分析について、モーションコントロールの売上減による利益減の影響が大きくみえるが、その理由は？

A 今回の通期計画の修正では、インバータとロボットについては、未受注分のうち約 1 割をリスクとして売上計画に織り込んだが、AC サーボは約 2 割をリスクとして織り込んでいる。期初計画では下期にかけて AC サーボの回復を他の事業よりも大きく見込んでいたため、今回の修正で AC サーボの売上減が大きくなり、それに伴う利益減の影響が大きくなった。

Q 通期計画の修正で織り込んだ新たなリスクについて、地域別やアプリケーション別などの内容は？

A 市場環境の変化やお客さまの注文状況については、見通しを含めて適時確認しているが、足元で具体的に悪化する兆しが数字に表れている地域やアプリケーションはない。投資の延期が通知されるなど明らかなリスクが判明していれば、その分を下方修正するという考え方は当然あるが、それが見えない状況のため、事業別にリスクを一定程度想定し、織り込んでいる。

【受注】

Q AC サーボとインバータの受注が中国・アジア地域で前年同期比で減少した理由は？ 一方でロボットが好調な背景は？

A AC サーボは、中国・アジア地域での受注が減少した。特に中国は、前年 1 Q までは受注環境が良好であったため、前年同期比はマイナスとなっている。前年 2 Q 以降は、景気の減速により受注が減速した。韓国の半導体分野でも、前年 1 Q は回復の兆しが見られたが、今年は本格的な立ち上がりには至っていない。インバータについては、中国・アジア地域でのインフラ関連投資が前年同期比でやや冷え込んでおり、これが影響している。

一方でロボットは、中国・アジア地域ともに堅調である。中国や韓国は自動車関連の大口案件が寄与している。

Q 日本を含めサーボの受注がマイナス傾向にあるが、半導体需要の動向は？

A 半導体の需要は、当初の想定よりもやや下振れしている。主なお客さまは装置メーカーだが、回復基調にあったものの 1Q では生産や発注の調整が発生しており、現在は一時的な停滞局面にある。足元の 2Q も同様の傾向が続くと見ているが、3Q(9月)以降は韓国を中心に投資が再開され、大型案件が動き出す見通しである。装置メーカーからもその準備を進めていると聞いている。

Q 中国のサーボ受注は QoQ で 3%減少している。同業他社では 4～5 月にかけて回復傾向が見られるが、当社はなぜ異なるのか？

A QoQ での減少は主に為替の影響によるものであり、為替の影響を除けば微増である。実態としては悪化していない。他社との比較については、すべてが同じ市場で競合しているわけではないため、単純な比較は難しい。当社としては、ターゲットにしている市場で劣後している認識はない。

Q 他の日系メーカーでは、自動車やスマートフォン関連で回復の兆しがあるとの声もある。当社でもそうした動きは見られるか？

A 中国のスマートフォンや PC 関連は活発に動いており、当社では、日本の電子部品分野にその好影響が現れている。チップマウント関連の需要が急増している。

Q 中国国内の動きについて、大きな変化はあるか？

A 大きな改善は見られないが、悪化もしていない。現状維持の状態だ。

Q 足元の状況を踏まえて、セグメント別の 2Q の受注見通しは？

A モーションコントロールは 1Q 比プラス、ロボットは大口受注のあった 1Q に比べ若干マイナスと見込んでいる。

Q モーションコントロールの 2Q 受注がプラスになると見ている地域は？

A サーボは欧州以外の全地域でプラスを見込んでいる。インバータはアメリカが牽引する。

【その他】

Q 米州のモーションコントロール事業において、インバータ事業はオイル・ガス関連の動きが鈍いようだが、足元の利益率はどのような状況か？米国での設備投資の計画もあるようだが、コスト負担が先行し利益率に影響する懸念はないか？

A 米州事業全体の 1Q 利益率は、10%を若干下回る水準を維持している。インバータが主力の収益源であり、AC サーボはインバータほどの利益率はないが、物量ベースでは妥当な水準を確保している。次期中期経営計画においては、2028 年に投資コスト負担も含めて 2 桁超の利益率を目指していく。

Q 米国における投資の発表が遅れた理由は？

A 遅れの原因は外部要因のみである。当社としての意思決定は随分前に行っていたが、現地の自治体との調整に時間を要し、発表のタイミングが遅れた。

以 上